

第6学年 外国語科学習指導案

1 単元名 Project I 世界で活躍する自分をしょうかいしよう。(「Junior Sunshine6」)

2 単元目標

- ・職業や住んでいるところ、食べ物、スポーツの言い方を理解できる。また、母音に注目し、単語を聞き取ることができる。 【知識及び技能】
- ・世界で活躍する自分になりきって自己紹介することができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- ・他者に配慮しながら、世界で活躍する自分になりきって自己紹介しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

本単元の目標は学習指導要領外国語第2英語の目標(3)話すこと[やり取り]イ「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」を受けて設定する。

本学級の児童はこれまでの外国語活動と外国語科の学習で、本単元の言語材料となる語彙のほとんどを既に学習している。とりわけ6年生になってから5月に学習した「Lesson3 Where do you want to go?」の学習で、ツアープランナーとしておすすめの国を紹介した経験から、世界の主な国の名前やその国でおすすめの食べ物などについて“You can eat～.”を用いて表現することができるようになった。またその後の「Lesson4 Welcome to Japan.」の学習では、日本の観光名所をALTに伝えた経験から、“It’s famous for～.” “We have ～.”を用いて、その地で有名なものを聞いたり言ったりすることができるようになった。この他にも、各単元において目的意識や相手意識をもって友達や教師の前で発表したり、友達同士でやり取りをしたりして、英語でコミュニケーションを取ることの楽しさや難しさを学んできた。

本単元はLessonではなくProjectである。Projectの単元は、これまで学習したことのまとめであり、発展学習という位置付けとして設定されている単元である。本単元では、これまでに学習した国、職業、食べ物やスポーツなどの言語材料を使って、世界で活躍する自分を紹介する活動を通して、実践的なコミュニケーション力を育てたいと考えた。教科書では、コミュニケーションにおける目的・場面・状況として「20年後の同窓会を開こう」と設定されているが、現実的に20年後の同窓会を想定すると、母語である日本語を用いて旧友と話すことが普通ではないかという児童からの指摘が想定される。全ての児童に必要感をもって英語を学習し、コミュニケーションの力を高めてほしいという思いから、コミュニケーションにおける目的・場面・状況を「20年後に海外のテレビ番組に取材される」と設定した。これにより、20年後に世界のどこで活躍していても、自分の職業や住んでいる国を紹介するなど、自己紹介をする必然性を児童に感じさせることができ、児童が主体的にその内容を思考できると考えた。

4 児童の実態(男子 15 名 女子 16 名 計 31 名)

【意識調査】調査日 9 月 22 日 (Google フォームを用いた質問形式による調査)

①外国語の学習は好きですか。またその理由を教えてください。

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
8 名 (24%)	21 名 (70%)	2 名 (6%)	0 名
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動が楽しいから。(多数) ・にぎやかな雰囲気が好き。(多数) ・新しいことが学べるから。 ・英語を話すのが好きだから。 ・知らない国の文化や言語を学べるから。 ・先生がいいから。 ・伝わると嬉しいから。 		<ul style="list-style-type: none"> ・英語が喋れないから。 ・英語が得意ではないから。 	

②先生や友達と英語でコミュニケーションを取ることは好きですか。またその理由を教えてください。

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
8 名 (26%)	15 名 (48%)	8 名 (26%)	0 名
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいから(多数) ・自分がどのくらいできているかわかるから (多数) ・話すことが好きだから ・新しい英語が覚えられて、話す技術を磨けるから ・英語が身についた感覚になるから ・相手の気持ちがわかるから 		<ul style="list-style-type: none"> ・話すことが苦手だから ・緊張するから ・英語が苦手だから ・難しいから 	

③外国語の学習で、大変なことは何ですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・特にない ・単語を覚えること ・英語を書くこと ・話すこと ・言葉の順序を覚えること ・発表すること ・先生の言っていることが聞き取れないとき ・会話をする ・似ている単語を聞き分けること ・ジェスチャーをつけること
--

④外国語の学習で、気を付けていることは何ですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・発音(多数) ・先生の話をよく聞くこと(多数) ・ジェスチャーをつけること ・言葉の順序 ・反応すること ・できるだけ挙手すること ・丁寧にアルファベットを書くこと ・わからないことを質問すること ・大文字か小文字の区別 ・四線に注意して書くこと

⑤英語を話したり書いたりできるようになったら、してみたいことはありますか。

・外国へ行くこと(多数)	・外国人と話すこと(多数)	・英語で手紙を書くこと
・日本の文化を教えること	・英語を使う仕事	・特にない。
・英検2級を受験すること	・外国の本を読む	・英語でゲームをすること
	・外国人の友達を作る	

⑥習い事で英語を習っていたり、外国など、英語を話す必要のある環境にいたりしたことはありますか。(複数回答あり)

英語(英会話)を習っている。	過去に英語(英会話)を習っていた。	英語圏の国に住んでいた。	英語圏以外の国に住んでいたが、英語も使っていた。	英語は小学校の授業だけで頑張っている。
9名(28%)	9名(28%)	2(4%)	1(2%)	12名(38%)

⑦20年後を想像してみましよう。あなたはどんな職業について活躍したいですか。

・教師	・弁護士	・パティシエ	・会社員	・音楽アーティスト	・スポーツ選手
・外国で働く医師	・声優	・裁判官	・サッカー選手	バスケットボール選手	・野球選手
・プログラマー	・助産師	・定食屋	・やりがいのある仕事	・絵を描く仕事	
・多言語を操る仕事	・他国と関わる仕事	・海外で活躍できる仕事			
・国のために活躍する仕事	・人のためになる仕事	・人と関わる仕事	・英語を使う仕事		

⑧20年後を想像してみましよう。あなたはどこに住んでいたいですか。

・日本(多数)	・アメリカ(4名)	・平和な国(2名)	・フランス(3名)	・ドイツ
・イングランド	・オーストラリア	・カナダ	・フィンランド	・栄えている国
・安全な国	・英語圏の国			

【既習の定着度調査】(動画撮影による調査)

○大谷翔平選手がスポーツニュースのコーナーで日本の子供たちにメッセージを伝えてくれるという設定です。以下の内容を英語でスピーチしてみましよう。

「こんにちは。私は大谷翔平です。私はアメリカにいます。アメリカでは大きなハンバーガーが食べられますよ。私は野球選手です。(最後にもう一つ、オリジナルで文章を付け足ましよう。)」

児童	挨拶	名前	アメリカ	ハンバーガー	野球	一言
1	○	○	△	×	△	×
2	○	○	△	△	△	×
3	○	○	○	×	○	△
4	○	○	△	×	○	○
5	○	○	○	○	○	○
6	○	○	×	×	○	×
7	○	○	×	×	×	×
8	○	○	×	△	○	○

9	○	○	△	×	○	△
10	○	○	○	○	○	○
11	○	○	△	×	×	△
12	○	○	○	×	×	△
13	○	○	×	×	○	×
14	○	○	×	△	○	△
15	○	○	△	×	×	×
16	○	○	×	○	○	△
17	○	○	△	×	○	×
18	○	○	×	×	×	×
19	○	○	×	×	○	×
20	○	○	○	○	×	×
21	○	○	○	×	○	△
22	○	○	△	×	×	×
23	○	×	×	×	×	×
24	○	○	○	×	○	×
25	○	○	○	○	○	×
26	○	○	×	×	×	×
27	×	○	○	×	○	×
28	○	○	×	×	○	○
29	○	○	△	×	△	△
30	○	○	○	△	○	○
31	×	×	×	×	×	×

【考察】

○意識調査について

児童の約9割以上が外国語の授業をととても好き・好きと回答した。主な理由として、「いろいろな活動が楽しいから」「賑やかな雰囲気が楽しいから」だった。一方で、外国語の授業があまり好きではない・好きではないと答えた児童は、「英語が喋れないから」「得意ではないから」という理由を述べていた。つまり、英語を話すことに抵抗感や苦手意識がない児童は、外国語の授業に対して肯定的な意見を述べ、抵抗感などがある児童は否定的な意見を述べていることがわかる。

児童の約3割が英語でコミュニケーションをとることに苦手意識をもっている。主な理由として「話すことが苦手だから」「緊張してしまうから」が挙げられた。外国語の授業を好んでいる児童も、やり取りに対する抵抗感や不安があり、英語で話す活動を好まない児童がいることがわかった。

外国語の学習で大変だと感じることを問う質問には、「単語や語順を覚えること」と回答した児童が最も多かった。本学級の児童は、英語を言語として慣れることよりも、知識として覚えようと努力

している児童が多いことがわかる。

気を付けていることについて調査では、「発音」と回答した児童が最も多く、続いて「教師の話をよく聞くこと」だった。この中には、「教師の発音を真似するため」と回答した児童も含んでおり、英語で表現する場面では、発音よく話したいと考えている児童が多いことがわかった。

英語を話したり書いたりできるようになったらしてみたいことについての調査には、「外国に行きたい」「外国人と話したい」と回答した児童がほとんどだった。また、将来の職業についての調査では、世界で活躍する職業や外国人と接する職業を希望する児童が多いことがわかった。本学級の児童は外国語の学習に前向きで意欲的な児童が多いと感じていたが、学習への意欲の高さは、英語学習への目的や将来の目標が明確にある児童が多いからだと考えられる。

○既習事項の定着度調査

本調査では、「大谷翔平選手がスポーツニュースのコーナーで日本の子供たちにメッセージを伝えてくれるという設定です。」と、あらかじめ目的・場面・状況を明確に提示した上で、スピーチをすることを求めた。これは、「最後にもう一つ、オリジナルで文章を付け足しましょう。」に対して、どのような一言を児童が選択するか調査したかったためである。最も多かった一言は「Thank you.」で、これは誤りではないが、目的・場面・状況に適した一言ではないと考え、×とした。「Do you like baseball?」や「Let's go to other country!」「Enjoy baseball!」「I like baseball.」など、目的・場面・状況に適した一言であり、正しい英語表現ができた児童を○とし、目的・場面・状況に適した一言だが、正しい英語とは言えない「Kids, fight!」や「You enjoy baseball.」などと表現した児童を△とした。

「Hello.」「I'm Otani Shohei.」という表現を期待した内容についてはほとんど全ての児童が正しく表現した。発話前に考えている様子もなく、スムーズに話す児童が多かった。続いて「I'm a baseball player.」という表現を期待した内容では、半数以上の児童が正しく表現できたものの、正確な表現ではないが伝わるという観点から△とした「I baseball player.」や、言いたいことが伝わらないという観点から×とした「My baseball player.」など、正しく表現できなかった児童が約40%いた。また、「I'm in the U.S.A.」「In the U.S.A, you can eat big hamburgers.」という表現を期待した内容は、発話前に悩んだり、発話後に言い直したりする児童が多かった上に、△とした「I in the U.S.A」「U.S.A, you eat a big hamburger.」や、×とした「I U.S.A.」「It big hamburger.」など、前述の挨拶・名前・職業と同様に、どれも既習表現であるにも関わらず、正しく表現することができなかった児童がほとんどだった。

この理由について、既習表現といえども、単元学習後に使用頻度が高いか否かが関係しているのではないかと考える。挨拶や名前の表現は3年生で学習し、その後はどの単元でも言語活動の際に使用する表現である。職業の表現はそのまま使用することはほとんどないが、5年生で学習し、5・6年生のリスニング教材でよく用いられる表現である。一方、その他の表現は6年生のLesson3で学習したばかりで、繰り返し使用したとは言えない表現だからだ。

以上のことから、本単元では、「20年後に海外のテレビ番組に取材される」という単元の最後の言語活動を目指し、新出表現を少なくし、既習の表現を基本とした言語活動を毎時間取り入れ、スパイ

ラル的に反復練習を行う。そうすることで、語順を覚えることが苦手な児童や、話すことが難しいと考えている児童が、必要な表現に十分に慣れ親しんだり、発音に注意しようと努める児童が繰り返し教師やALTの手本を聞く機会が増えたりし、自信をもって最後の言語活動に挑めるだろうと考えた。

また、スピーチの調査で全てに○が付くような、学力の高い児童や、外国語学習への意欲が高い児童の知的好奇心に応えるため、既習の表現を基本とした言語活動にしつつ、児童の願いに応じて、言語活動に用いる新しい表現を指導する機会を作る。そうすることで全ての児童が、個人のめあてを達成できるような言語活動になると考えた。

5 研究主題との関連

千葉県教育研究会国際教育部会 研究主題

地球的視野に立って、主体的に行動できる児童生徒の育成

目指す児童像

- ①自ら発信し行動することのできる児童
- ②自らの国の伝統・文化に根差した自己の確立ができる児童
- ③異なる文化を持つ人々を受容し、「つながる」ことのできる児童

研究課題

- (1)国際社会において、地球的視野に立った学びを構築する教科横断的な授業カリキュラムの授業研究
- (2)様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きようとする児童生徒の育成を図るための授業研究
- (3)日本語指導が必要な児童生徒の学習や生活に対応する適応指導

本授業では、研究課題(1)に関する実践を試みる。課題解明の方策として「(1)外国語を使いながら、主体的に世界の人々に対し、自分の思いを発信していこうとする児童を育成する。」とあり、学習指導要領(3)話すこと[やり取り]イ「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」を選び授業を計画した。そこで以下の2点の視点を設定し、検証することにした。

- 1 児童が、目的意識・相手意識を明確にもつことのできる目的・場面・状況の設定
- 2 児童が、自らのめあてに基づいて内容を決め、主体的に取り組める言語活動の設定

1 児童が、目的意識・相手意識を明確にもつことのできる目的・場面・状況の設定

コミュニケーションは、目的や相手によって言葉の選び方や内容を決めて話すことが必要である。しかし、その目的・場面・状況が児童にとって必要感や必然性が感じられない設定では、児童の意欲が失われてしまう。そこで児童が必要感や必然性ととも目的意識・相手意識を明確にもつことを目的とし、20年後の自分が、海外の幅広い年代に視聴されるテレビ番組の取材を

受け、自分の職業や住んでいる国などについて自己紹介をするという目的・場面・状況を設定した。テレビ番組という児童に身近なものに設定することで、コミュニケーションの目的・場面・状況が児童にとって理解しやすいと考えた。また、取材を受けるという誰にでも可能性のある場面であるため、必要感をもって学習に取り組めるだろうと考えた。

2 児童が、自らのめあてに基づいて内容を決め、主体的に取り組める言語活動の設定

児童の実態から、本学級は外国語の能力の差が大きいことがわかる。そこで既習表現を用いればほとんど行うことができる自己紹介を言語活動に設定する。そうすることで、外国語に苦手意識をもつ児童も挑戦しやすく、与えられる台本を待つのではなく、どのような内容を話そうかと自ら考えられるのではないかと考えた。一方で外国語が好きだったり得意だったりする児童は、20年後への想像を豊かに膨らませ、様々な表現を用いて工夫して自分のことを紹介することが期待できる。

また、単元の終わりの言語活動では、テレビクルー役の教師から取材を受ける。ALT、JTE(授業者)、教務主任の3名の教師は、本単元で繰り返し学習した既習表現を用いて答えられるインタビューを主とするが、それぞれ異なる役割で児童にインタビューする。ALTは既習表現に捉われずに質問する可能性がある。JTE(授業者)は3年生から本単元までに学習してきた既習の表現を用いて質問する可能性がある。教務主任は本単元で繰り返し学習した既習表現のみを用いて質問する。児童がそれまでの学習を踏まえ、相手を選ぶことができるようにすることで、外国語が苦手な児童も得意な児童も、自分でめあてを立てて単元への見通しをもち、主体的に取り組めると考えた。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
職業や住んでいるところ、食べ物、スポーツの言い方を理解できている。また、母音に注目し、単語を聞き取ることができている。	世界で活躍する自分になりきって自己紹介することができている。	他者に配慮しながら、世界で活躍する自分になりきって自己紹介しようとする。

7 指導と評価の計画(4/6)

時	学習内容(◇主な言語活動)	各時間に扱う表現	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Youは何しに日本へ？」の番組を視聴し、単元のゴールを設定する。 世界で活躍する人についての話を聞き、20年後の自分を想像する。 	illustrator/designer/baseball player/basketball player/teacher/soccer player/doctor/police officer/florist/game creator	<ul style="list-style-type: none"> 自分の職業を友達に伝えることができている。【知識・技能】 職業を書き写すことができている。【知識・技能】

	<ul style="list-style-type: none"> ・職業の言い方を聞いたり言ったりする。 ◇20年後を想定して、友達に自分の職業を伝える。 ・職業の単語を書き写す。 	<p>I' m a ~.</p> <p>What are you do now?</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・国の名前を聞いたり言ったりする。 ◇20年後を想定して、友達に自分の住んでいる国を伝える。 ・国の名前を書き写す。 	<p>theU.S.A/Brazil/Japan/China /India/theU.K/France/Germany /Italy/Switzerland/Kenya</p> <p>Where do you live?</p> <p>I live in~.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる国を友達に伝えることができる。 【知識・技能】 ・国の名前を書き写すことができる。 【知識・技能】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の有名な食べ物などについて尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・ギガタブで世界の有名なものを調べる。 ◇20年後を想定して、友達と自分の住んでいる国で有名なものを伝え合う。 	<p>What~is famous in...?</p> <p>(~には、food/place/event などを入れる。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる国で有名なものを友達に伝えることができる。 【知識・技能】 ・世界の有名なものに興味をもち、調べようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ◇20年後の自分になりきって、友達と会話をする。 ・他にあり得る質問やその答えを考える。 	<p>Hello. /What' s your name?/I' m Otani Shohei./What are you do now?/I' m a baseball player. /Where do you live? /I live in the U.S.A./What food is famous in the U.S.A? /Big hamburgers/</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後の自分になりきって、友達と会話することができる。 【思考・判断・表現】 ・想定される他の質問や答えについて考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
5	<ul style="list-style-type: none"> ◇「20年後の自分になりきって、Youは何しに海外へ？」の番組のインタビューに答える。 	<p>Hello./What' s your name?/I' m Otani Shohei./What are you do now?/I' m a baseball player. /Where do you live?/I live in the U.S.A./What food is famous in the U.S.A?/Big hamburgers/ Where is your favorite place in the U.S.A?/I like Angels stadium./Thank you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後の自分になりきって、記者からのインタビューに答えることができる。 【思考・判断・表現】

6	<ul style="list-style-type: none"> 英語の母音に注目し、単語の間にある母音を選んだり書いたりする。 ペーパーテストをする。 	jam/pan/hat/bed/net/jet/lip /pin/wig/pot/rod/pop/bus/cup /bug	<ul style="list-style-type: none"> 英語の母音に注目しながら単語を言ったり、間にある文字をなぞって書いたりすることができる。 <p>【知識・技能】</p>
---	--	---	---

8 本時の指導

(1) 本時の目標

○20年後の自分になりきって、友達と会話することができる。 【思考力・判断力・表現力等】

○海外のテレビ番組の取材で、想定される質問や答えについて考えようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

過程	学習活動と内容	教師の指導と支援 ◎評価の観点
挨拶 (3)	1 挨拶をする。 T: Let' s get started! Good afternoon. S: Good afternoon. T: How are you? S: I' m sleepy.	<ul style="list-style-type: none"> 明るく挨拶し、楽しい雰囲気を作る。 全体に挨拶と天気などの質問をする。
復習 (10)	2 これまでの学習の復習を行う。 T: What are you do now? (サッカー選手の絵カードを提示) S: I' m a soccer player. T: Where do you live? (アメリカの国旗を提示) S: I live in the U.S.A. T: What food is famous in the U.S.A. (ハンバーガーの絵カードを提示) S: Big hamburger are famous.	<ul style="list-style-type: none"> 単なる反復練習にならないよう、児童と教師との会話形式で復習ができるようにする。 会話の役割を変えることで、児童が質問者の表現にも慣れ親しめるようにする。 難しい言葉は繰り返し同じカードを提示させることで、発音に慣れさせるようにする。
導入 (7)	3 めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 20年後の自分になりきって、インタビューに答える練習をしよう。 </div> 4 教師のデモンストレーション動画を見る。	<ul style="list-style-type: none"> 聞いた後にどんな話をしていたかを考えさせることで、既習表現で話ができることに気付かせる。 インタビュワー役の児童が使える表現を示すことで、友達との会話への意欲をもたせる。

	<p>ALT: Hello. This is Pakistan TV. May I interview you? JTE: Sure. ALT: Thank you. What's your name? JTE: My name is Susan. ALT: Susan, where do you live? JTE: I live in France. ALT: You live in France. What do you do? JTE: I'm an elementary school teacher. ALT: By the way, what food is famous in France? JTE: Macarons are famous. ALT: Macarons! Nice. Ok. Thank you!</p>	<p>インタビュー役として使える表現 ①Ok. やNice. などの相槌をうつ。 ②相手が言ったことをゆっくりリピートする。(その間に次の話題を考える。) ③By the way(ところで)を使うと、違う話に切り替えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューに生かせる既習表現の型を配付することで、自信をもって会話ができるようにする。
展開 (20)	<p>5 友達とインタビュー練習をする。</p> <p>6 次時に想定される質問とその答えを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「どのチーム？」って聞かれたら「I' m in FC barcelona.」と答えよう。 「メッセージをどうぞ。」って言われたら何て答えようかな。「Please visit to Tokyo.」がいいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師がペアを指定することで、前時までとは異なるペアとなり、会話に必然性をもたせる。 会話につまっても、互いに助言し合ってよいことを伝える。 自由にメモを取らせ、困ったことやもっと言いたかったことを書き出させ、次の活動につなげる。 ジェスチャーを付けたり、型にない表現を取り入れたりして会話をしているペアを全体で共有し、称賛する。 <p>◎20年後の自分になりきって、友達と会話をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童から出た考えを黒板で共有することで、他の児童も自分に置き換えて答えを考えられるようにする。 <p>◎海外のテレビ番組の取材で、想定される質問や答えについて考えようとしている。</p>
振り 返り (5)	<p>7 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで学んできた表現を使うと、インタビューに答えることができ、本番への自信になった。ぜひ、サラマン先生(ALT)の取材に答えたい。 今まで学んできた表現なのに、聞かれると答えにつまってしまった。もう少し練習して、スーザン(JTE)の取材に答えたい。 とっさの質問が来て、どうしようかと思った。次回はあわてないように、清水先生(教務主任)の取材に答えたい。 <p>8 挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りとともに、自分のめあてに応じて、どの先生の取材に答えたいかを記入させることで、一人一人のめあてを明確化させる。 <p>ALT の取材…既習表現の他にも、質問される可能性がある。</p> <p>JTE の取材…既習表現で答えられる質問をされる。</p> <p>教務主任の取材…本時で使用した型通りの取材をされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時の活動について説明をし、次時への期

	T: All right, everyone, that' s all for today. S: Thank you!	待を高めるようにする。
--	---	-------------